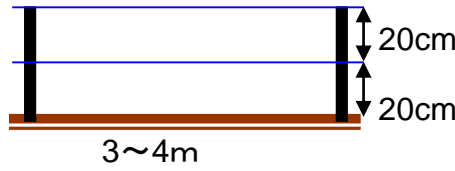


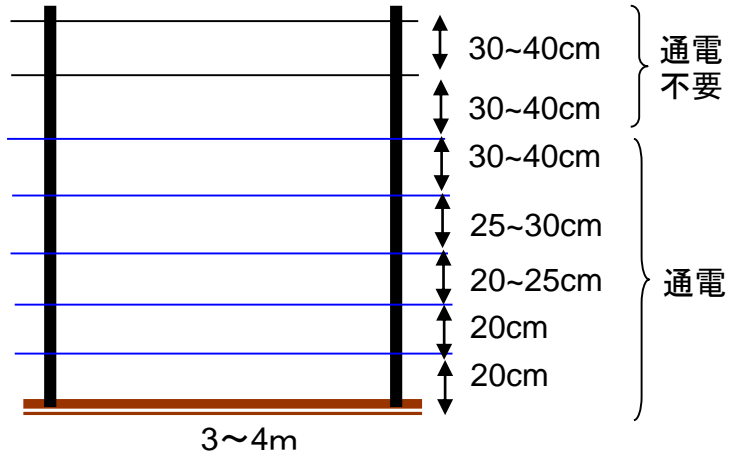
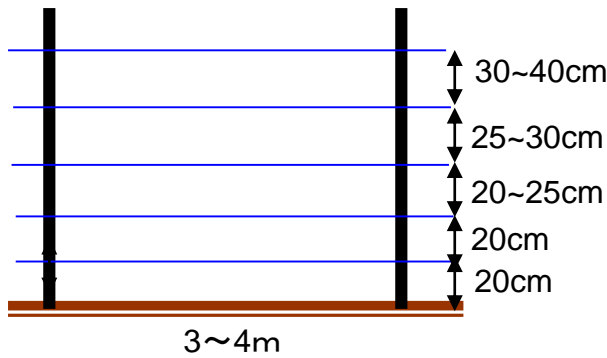
# 電気柵の設置と管理 (イノシシ・シカ用)

## イノシシ対策 電気柵



跳び込みが心配な場合は、  
3段目を追加（間隔20cm）

## シカ+イノシシ併用電気柵



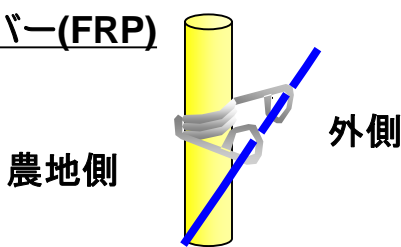
5段以上が望ましい。  
状況に応じて、段数を増やす。  
(予め、2m以上の支柱を準備)

空中で柵線に触れても電気が流れない  
ため、上部2段は通電不要。

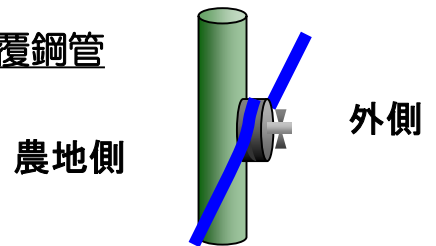
## 適切な設置 電柵線と支柱

電柵線が支柱の外側（獣側）にくるように設置する！

グラスファイバー(FRP)

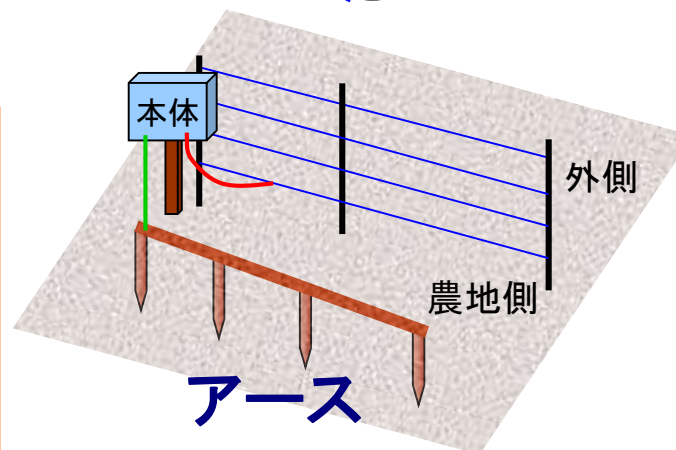


樹脂被覆鋼管



## アースの設置

- 商品の指定に従い、必要な本数を十分な距離をとって設置する。
- できるだけ深く埋込む
- 湿った場所に設置する。



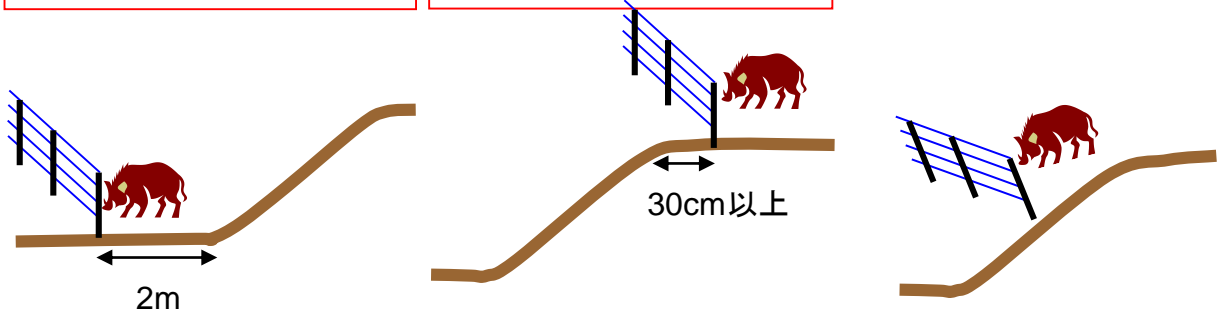
# 適切な設置 立地・地形に合わせて設置

## 崖・山部地形

斜面下部、**斜面から約2m以上離して設置**

斜面の頂上からは**30cm以上離して設置**

斜面に**直角に設置**

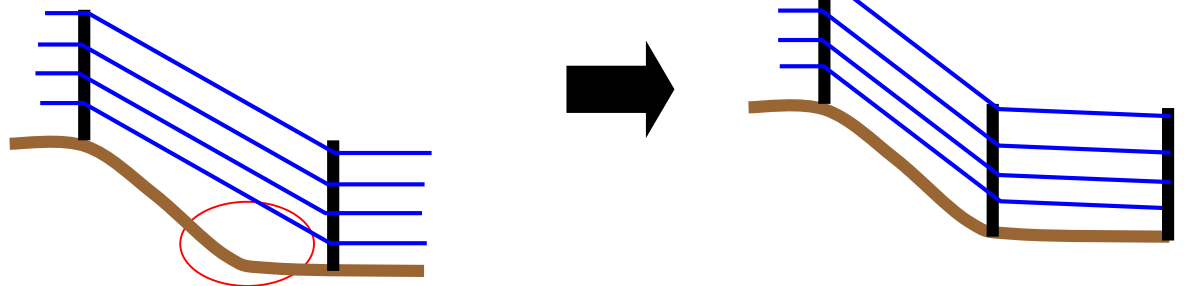


## 傾斜の変化点

× 悪い例

**支柱を増やして、スキ間を無くす**

地形が変われば、スキ間ができる

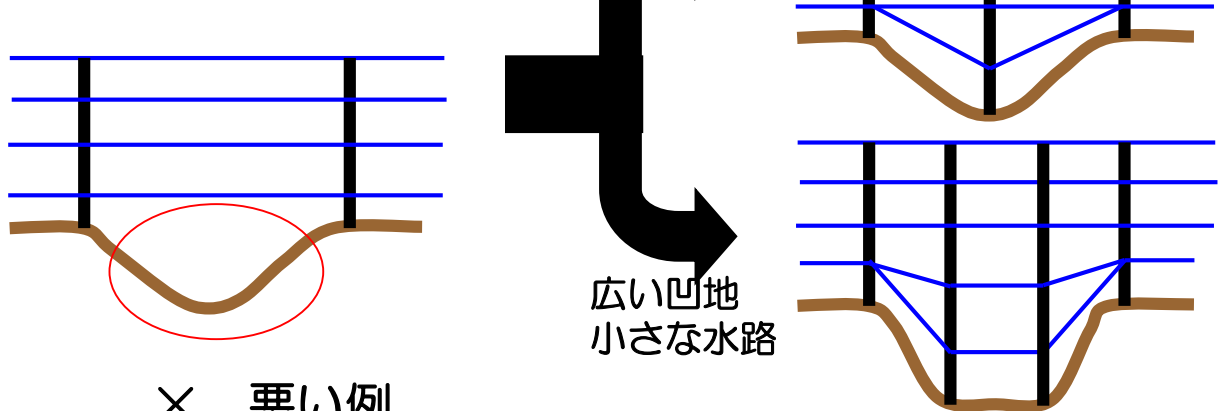


## 窪地地形

× 悪い例

小さな凹地

凹地や溝に、スキ間ができる

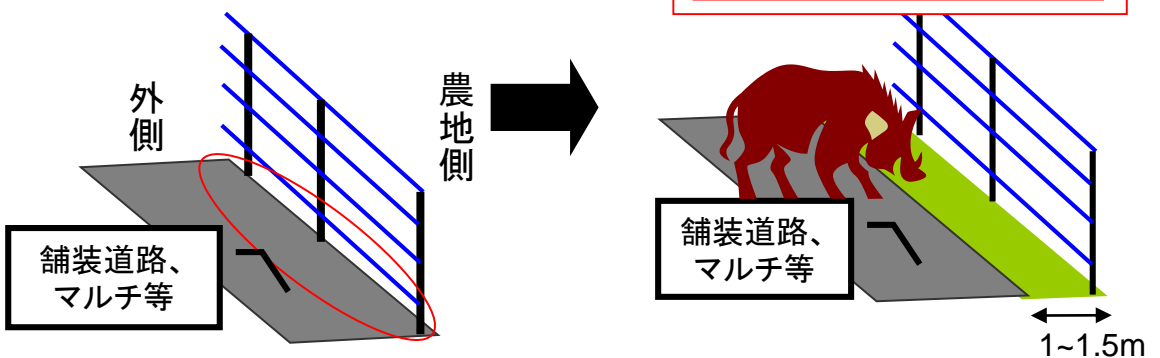


## その他

× 悪い例

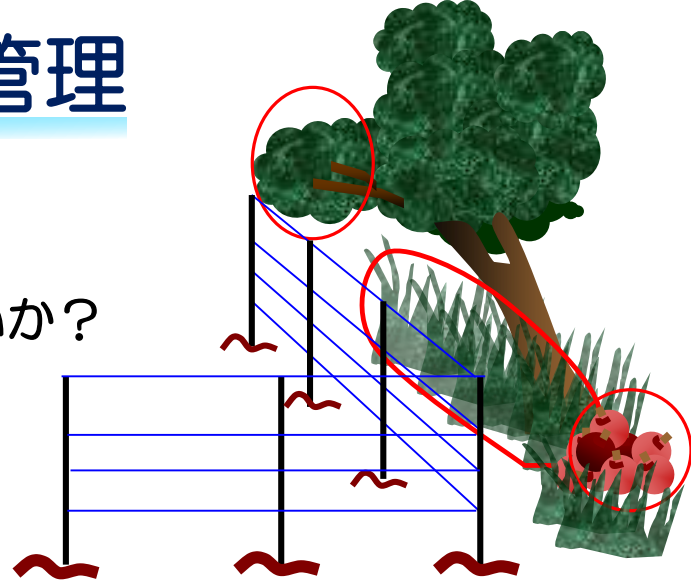
アスファルト、コンクリート、  
マルチは電気を通しません

**マルチ、アスファルト、  
コンクリート等から離す**



# 周辺環境の基本的管理

- 周囲の藪を整理してあるか？
- 誘引物は無いかな？
- かぶさっている樹木・枝は無いかな？  
(枝や木が覆っていると侵入口になることがあります)



# 漏電を防ぐ基本的管理

- 電圧はこまめにチェック
- 地面と接触していないかな？
- 柵線が切れていないかな？
- 草が接触していないかな？
- 金属や石に接触していないかな？
- 水面に接触していないかな？

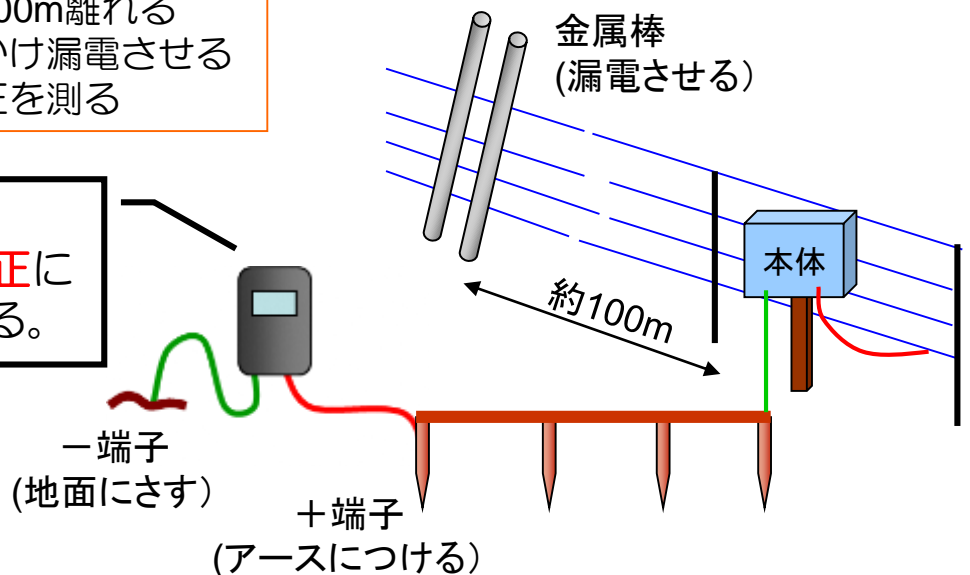


植物に接触した時の電圧低下の例  
4段、約200mの電柵で  
2箇所が接触したときの電圧低下  
約40% (7200v→4400v)

# アースの点検方法

- ①電牧機本体から、約100m離れる
- ②柵線に金属棒を立てかけ漏電させる
- ③アース棒と地面の電圧を測る

電圧の測定  
100V以下なら、適正に  
アースが機能している。



# その他の管理とヒント

**\* 冬期や休作期間など、長期間通電しない時は電柵線をかたづけろ！**

通電しない柵に慣れると、通電後に通過される可能性が高まる

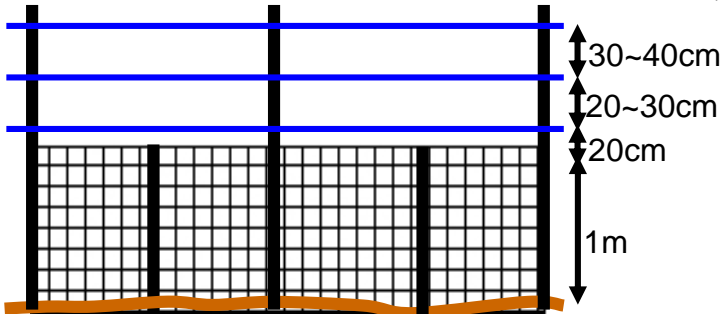
**\* 電気柵が効かなくなったら、試してみる！**

- 電柵線の本数を変更する。 例えば 2本→3本
- 電柵線の間隔を狭める。 例えば 20cm→10cm
- 電柵線の色や形態を変更する  
例えば 色：青→白又は赤 形態：ヨリ線→リボン線
- 動物側に、2段又は1段の電柵を新設する。

**\* 電気柵から複合柵へバージョンアップ！**

効かなくなったら、組み合わせて防除効果アップ

**電気柵＋ワイヤーメッシュ** (シカ＋イノシシ併用)



ワイヤーメッシュ	電気柵 (柵線間隔)
網目：10cm以下	1段目：20cm
線径：5mm程度	2段目：20~30cm
柵全高：1.8m以上	3段目：30~40cm

(※) 空中では通電しないので、3段目は通電不要です。

**電気柵＋樹脂等のネット**

(シカ・イノシシ併用)

奥行きを持たせて、防除効果の向上。  
電気柵はネットより外側(獣側)に設置する。(電気ショックを受けた動物がネットに絡まることを防ぐ)

